

技術士試験対策で講習会

水コン協 制度改正点など説明



全国上下水道コンサル
タント協会は4月22日、
都内で技術士試験対策講

習会を開いた。第二次(筆記・口頭)試験の受験希望者約50人が参加するなか、元試験委員と昨年の合格者が講師を務め、今年の試験制度の改正や勉強法などのポイントを説明した。

技術士は難しい国家資格として知られ、昨年の全部門を合わせた合格率は9・5%だった。10%を割ったのは昨年初めてで、上下水道部門の合格率も年々低下傾向にある。加えて今年は、試験制度が5年振りに大きく改正されるため、入念な対策が必要となる。

第二次試験の受験希望者50人が参加

試験委員を務めた経験を中川勝裕氏(日水コン)からは、試験制度の改正と対策について説明があった。大きな変更は、技術士に求められ

る資質能力(コンピテンシー)が明確化され、筆記試験の評価項目や口頭試験の試問事項として、実務における「マネジメント」、「コミュニケーション」、「リーダーシップ」などが定められた点で、専門知識に加え、問題解決に必要な高い応用力が求められる。筆記試験では、必須科目の出題形式が択一式から記述式になり、選択科目IとIIの間の休憩時間がなくなった。必須・選択を合わせる、600字詰で約9枚分の答案を書くことになる。

昨年の試験で上下水道部門に合格した東賢吾氏(日水コン)、塚田裕美氏(NJS)、下水道部門に合格した渡邊優作氏(日本水工設計)、島田浩司氏(オリジナル設計)からは、勉強法や試験当日の心構え、不合格だった時の反省点など、自身の体験をもとにしたアドバイスがあった。